

5. シカゴモノグラフ

パークとバージェスの指導のもとで、さまざまな都市研究があらわれた。それらの研究の多くは、シカゴを研究対象として、社会問題や社会現象の空間的パターンを「社会解体論」の観点から分析するものであった。

(1) 人間生態学

●パークの経歴



1887年 ミシガン大学卒（当時、デューイがいた）。

その後、約10年間、新聞記者として働く。

ハーバード大学に戻り、ウィリアム・ジェームズに学ぶ。

1898年～1903年 ドイツ留学。ハイデルベルクで哲学の博士号を取得。

ベルリンでは、ジンメル の講義に出席。

アメリカに戻ってからは、人種問題に取り組み、社会改良家、ブッカー・T・ワシントンの秘書を務める。

Robert E. Park (1864-1944) タスキーギでの人種問題会議を準備。トマスと出会う。

http://www.lib.uchicago.edu/projects/centcat/centcats/fac/facch17_01.html

1913年からシカゴで非常勤講師を勤める。1923年に正教授となる。

バージェスとコンビを組んで、精力的に学生を指導。シカゴ学派都市社会学の指導者。

●人間生態学

都市における人間集団の相互依存関係を、植物生態学に類比できる人間の生態学的な過程としてとらえる。

●コミュニティとソサエティの区別

生態学的コミュニティ——一定の空間的な範囲内における、異質な人びとの競争的相互依存関係（共棲）。侵入、継承（遷移）、支配（優占）、集中化などの空間的過程を記述。

ソサエティ——コミュニケーションと合意にもとづく道徳的な秩序。

→不安定な競争的相互依存の状態にある都市から、いかなる道徳的秩序が生まれるのか。これを探求することが、シカゴ学派都市社会学の出発点にある問題関心であった。

●ソサエティとしての都市

パークの論文「都市——都市環境における人間行動研究のための若干の提案」は、ソサエティの水準に踏み込んだ都市の記述。

「都市とは、たんなる個々人の集まりでもなければ、社会的施設——街路、建物、電灯、軌道、電話など——の集まりでもなく、何かそれ以上のものである。また、たんなる制度や行政機関——法廷、病院、学校、警察、各種の行政サービスなど——の集まりでもなく、

何かそれ以上のものである。むしろ都市は、一種の心の状態、すなわち伝統や慣習の集合体であり、もともとこれらの慣習のなかに息づいており、その伝統とともに受け継がれている組織された態度や感情の集合体である」(Park 1925, p.1)。

パークは 20 世紀初頭の都市を移民社会の縮図として描き出す。混沌とした都市のなかから、いかなる社会秩序が発見できるのか。これがパークの基本的な問題関心であった。パークの混沌とした記述のなかに、都市社会学の基本問題が出そろっていた。

●パークとバージェスの指導体制

『社会学という科学への入門』(Introduction to the Science of Sociology)。

シカゴをフィールドとする調査研究へ。社会地図づくり。あらゆるデータを地図に落とす。

1923 年以降、地域コミュニティ調査委員会によって組織的・体系的な地区別データの収集・整理が実施される。

●シカゴ社会学シリーズの刊行

期末論文→博士論文→シカゴ大学出版会から「社会学シリーズ」として刊行。

(2) シカゴ・モノグラフ

●アンダーソン『ホーボー』(1923 年) 渡り労働者の研究。

→戦前、東京市社会局によって紹介された。紹介者は磯村英一。

●スラッシャー『ギャング』(1927 年) 1313 のギャング集団の研究。

「隙間地帯」に発生する「隙間集団」。

①業務地帯と住宅地帯の隙間に発生する。解体地域の組織化。

②「大人」と「子ども」の隙間に発生する。

③「移民」(第 1 世代: 親) と「アメリカ人」(学校) の隙間に発生する。

④移民社会とアメリカ社会の隙間に発生している。→アスレチック・クラブとして制度化され、犯罪組織や政治家と繋がりをもつようになる。

●マウラー『家族解体』（1927年）

同心円と家族類型

非家族地区：男性単身者の一時的居住（中心部）

解放された家族地区：同棲など。推移地帯の下宿屋、賄い付きアパート、居住ホテル等。

父親中心の家族地区：労働者階級地域。

平等家族地区：中産階級の住宅地区。

母親中心の家族地区：郊外地域。母親中心のコミュニティ。

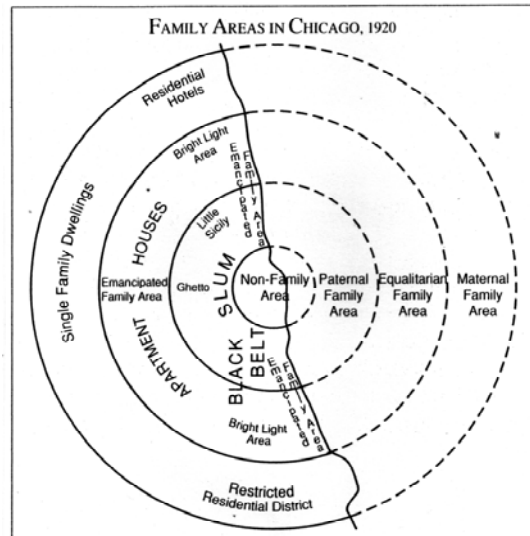


図 4.2 シカゴの家族地区(1920) 出典：Mower, 1927, p. 113

家族解体率——離婚率（1919年の離婚訴訟数／1920年センサス人口）

家族遺棄率（1921年の家族遺棄申立数／1920年センサス人口）

父親中心の家族地区では、家族遺棄率が高い。

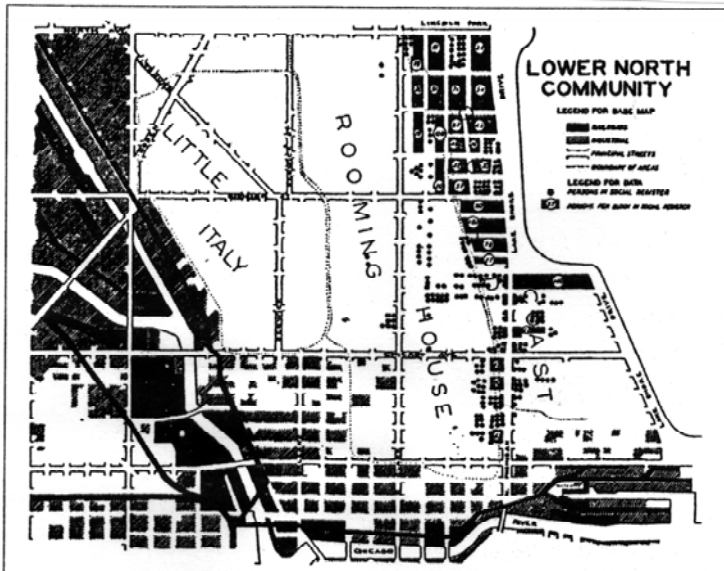
平等家族地区では、家族遺棄率と離婚率が双方とも高い。

●ゾーバー『ゴールド・コーストとスラム』（1929年）

ニア・ノース・サイドのコミュニティ研究。

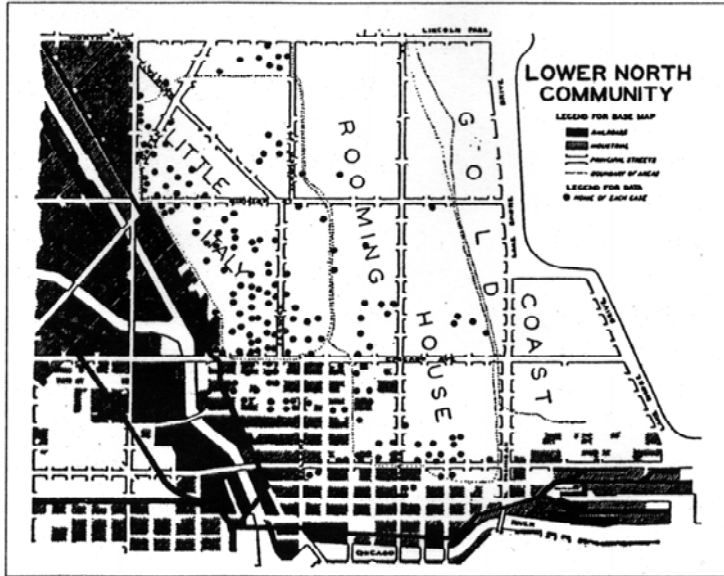
推移地帯のなかに高級住宅街ゴールド・コーストと、下宿屋街、ボヘミア街、リトルシリー、暗黒街などがある。

社会解体論に立脚した地域コミュニティ研究。



THE GOLD COAST.—Chicago's society is concentrated along the strip of lake shore north of "Streeterville," with a scattering on LaSalle, lower Rush, Huron, Superior, Ohio, and Cass, streets, fashionable a generation ago. This map, compared with those of the "World of Furnished Rooms" and "Little Sicily," brings out strikingly the segregation characteristic of the life of the great city. In this and succeeding maps the solid black areas indicate that the dots—here representing the residences of persons whose names appear in the *Social Register* (1923)—cluster too thickly to be individually represented.

図 4.3 ニア・ノース・サイドの『紳士録』登載者の分布 出典：Zorbaugh, 1929, p. 50



JUVENILE DELINQUENCY.—Juvenile delinquency is characteristic not of nationality, race, nor intelligence, but of the slum. It is particularly characteristic of the foreign slum, where the second generation is trying to live and adjust in two worlds with conflicting definitions of situations (data after Shaw).

図 4.4 ニア・ノース・サイドの少年非行発生地図 出典：Zorbaugh, 1929, p. 176